

2014年度 年度計画

2014年度の重点方針について

- 2014年度は第2期中期計画の2年目にあたり、軌道に乗せる上で重要な年度である。さらに、2年後の2016年度に70周年という大学にとっての大きな節目を迎える。
- このため、70周年記念事業を中心に、特色ある教育研究活動や成果を社会に発信・PRするための記念行事や広報、事業などを総合的に企画していく。
- 教育研究に関して、中期計画の目玉に掲げる大学院教育改革、研究活動支援における新たな諸施策を実行に移す。
- 留学や施設充実をはじめ、魅力ある大学づくりを加速する。また、第2期以降も視野に入れた学部教育の次の改革の方向を探り、授業評価や第1回学生生活調査結果の全学的な分析に着手する。
- 将来に向けて、外国語大学としての意義や利点を踏まえた大学運営を追求するとともに、東京外国語大学など、理念をともにする国内大学との連携を深める。また、提携大学を拠点に海外に開かれた大学づくりを進め、一方で、公立大学として国際都市神戸に多様な形で根差した大学づくりに取り組む。

第1 国際的に通用する人材の育成

1 高度なコミュニケーション能力の養成

(1) 複数外国語運用能力の獲得

- 各学科の専攻語学のガイドラインについて、授業を担当する教員全員に十分周知し、運用を開始する。
- 兼修語学について、学生意見を踏まえて今後の充実や見直しの方向性を検討する。

(2) 幅広い教養の修得

- 情報リテラシーや経済分野などの教員体制を拡充するとともに、通訳・翻訳分野のコース教育の体制などを検討する。
- ゲストスピーカー事業に加え、教育支援事業の制度設計を完成させ、特色ある教育活動支援の諸制度を整備する。
- 学生の図書館利用の利便向上を図る。

(3) 高度な外国語運用能力と幅広い知識に基づく実践的な発信力の強化

- 地元企業の販売促進戦略を英語で発表する第4回全国大学生マーケティングコンテストを開催する。
- 英語で討論や発表を行う「模擬国連」や「神戸研究」などの授業科目について、大学広報や地域貢献に結びつけるなど効果的な実施方策を検討する。
- 学生の発表や討論などの学修活動を支援する事業を図書館ロビーで開始する。また、発表や討論などの演習ができる新たな教室と学生グループの学修施設の2016年度新設の設計を完成させる。

2 開かれた大学院教育

(1) 大学院教育の充実

- 「課題研究コース」について、2015年度新設に向けて学生募集を行う。
- 大学院における社会人の受入を促進するための「社会人コース」の制度設計を行う。
- 大学院入試説明会について、開催場所や時期などの工夫や改善を加えて実施する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は2011年度末までの実績値)

| |
|--|
| ・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→5種類(全学科の専攻語学に整備を完了)) |
|--|

| | |
|----------------------|----------------|
| 特色ある教育活動の 支援事業の創設 | 2014年度 新規実施 |
|----------------------|----------------|

| |
|----------------------------------|
| ・図書館の入館件数 (2011年度164,545件→増加) |
|----------------------------------|

| |
|---|
| ・全国大学生マーケティングコンテストの参加大学数 (2011年度13大学→増加。 全国大会として定着を図り、学生に質の高い研鑽機会を提供する) |
| ・国際コミュニケーションコース修了生のTOEICスコア (2011年度平均903点→900点超の維持) |

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は 2011 年度末までの実績値)

(2) 研究者の育成

- 海外の国際会議発表助成制度を実施するなど、大学院生の研究活動を支援する。
- 東京外国語大学との第 5 回合同セミナーを行う。
- 天津外国語大学（中国）とのダブルマスター制度に加え、2015 年度に開設するモナッシュ大学（オーストラリア）とのダブルマスタープログラムの第 1 期生の募集を行う。

・海外の国際会議発表助成制度の利用者数（博士課程）
(2011 年度 2 件→2013 年度 3 件)

3 教育制度の継続的改革

- カリキュラムの運営を行い、運営上の課題点への改善や充実を図る。
- 授業評価アンケートや第 1 回学生生活調査結果を大学運営に活かすための学内の審議の仕組みを構築する。

4 入試制度の検証

- センター試験の科目数を前期同様の 4 科目に見直した新たな後期入試を実施する。
- 入学者アンケートや出身地域分析、入学後の成績追跡調査などにより、本学の学生獲得状況の動向の検証に努める。

| | |
|------------------|-----------------|
| 新しい後期入試制度 の実施 | 2014 年度 新規実施 |
|------------------|-----------------|

・総志願者倍率
(第 1 期年度平均 4.6 倍→概ね 4 倍以上の水準の維持)

5 学生への生活支援と進路・就職支援

(1) 学生への相談支援

- 第 1 回学生生活調査の結果をまとめて、学内外に公表する。
- 日常的に学生の悩みや相談と向き合う教職員の対応力を高めるために、心得やノウハウ等を教授する講演会を新たに実施する。

(2) 就職支援の拡充

- 海外インターンシップ事業の第 2 期生を学内選抜き、派遣する。
- キャリアサポートセンターとゼミ指導教員との連携を深め、4 年生の内定状況の早期把握や未内定者への個別相談指導をきめ細やかに行う。
- 企業の採用活動における解禁時期の繰り下げにより学生の就職活動に混乱が生じないように十分な情報提供を行う。

・就職内定率
(2011 年度 97.1% (全国 93.6%)
→全国平均に比べ高水準の維持)
・卒業生の就職先等の把握率
(2011 年度 100%→維持)
・インターンシップ派遣数（大学あっせん分）
(2011 年度 16 団体 29 名→2014 年度 38 名)
・TOEIC 受験者数（1 年生）
(2011 年度 326 名→増加)

第2 高度な学術研究の推進

1 外国学の研究拠点としての役割の充実

(1) 大学独自の研究プロジェクト

- 国際会議・セミナー等開催支援事業を新たに実施し、2014年度に開催する会議の学内募集を行う。
- 学内のリサーチプロジェクト事業に選定した模擬国連に関するプロジェクトについて、2017年度の国際会議の開催準備に着手する。

(2) 外部資金を活用した研究活動の拡大

- 申請説明会やアドバイジング窓口などにより、若手研究者への申請支援を重点的に行う。
- 科学研究費補助金の申請意欲を高めるため、不採択案件の研究継続助成を新たに行う。
- リサーチプロジェクト事業などの学内の共同研究活動において、大型科学研究費補助金などの獲得を促す。

(3) 外国学研究所事業の充実

- 従来の共同研究班事業を再編したリサーチプロジェクト事業を実施する。
- ポストドクターなどの客員研究員としての受け入れを促進する。
- 文部科学省の公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正への対応を行う。

2 研究成果等の公表の促進

- 学術論文などを保存・公開するリポジトリシステムのコンテンツを充実させる。
- 教員の研究活動や成果について、研究者だけでなく市民の関心などを踏まえた多様な形で社会に発信する方法を検討する。

3 海外の研究機関との学術提携

- 学内研究者の海外のフィールドワーク先や研究交流相手先を踏まえて、新たな学術提携先を検討する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は2011年度末までの実績値)

| | |
|----------------------|----------------|
| 大学独自の研究プロジェクト支援事業の創設 | 2014年度 新規実施 |
|----------------------|----------------|

| |
|----------------------------------|
| ・研究プロジェクト支援事業の利用件数 (第2期に3件以上) |
|----------------------------------|

| |
|---|
| ・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数(各年度の受入及び新規申請の合計) (2011年度80件(うち研究代表者44件)、49名(うち研究代表者37名)→増加) |
| ・大型科学研究費補助金(基盤A又はB)の新規申請件数 (毎年度1~2件申請) |

| |
|-------------------------------------|
| ・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加) |
|-------------------------------------|

| |
|--------------------------------------|
| ・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2014年度6件) |
|--------------------------------------|

第3 地域貢献

1 市民の生涯学習意欲への対応

(1) 社会人学生の受入

- 学習意欲や知的探究心の旺盛な市民を社会人学生として受け入れるため、大学院における「社会人コース」の制度設計を行う。
- 学部と第2部（夜間）の区分を一本化して履修の利便を向上した新たな科目等履修生制度を実施する。

(2) 市民の生涯学習機会の提供

- 少人数制で連続講座のオープン・セミナーにおいて、消費者教育に関する講座を神戸市の協力を得て三宮会場で開催する。
- 本学の研究者やテーマの魅力、市民の関心に応じた多様な形態の講座などの企画を検討する。
- 大学図書館の市民利用制度の開放日数を試行的に拡大する。

2 神戸市の教育拠点としての役割の充実

(1) 小中高校の英語教育の支援

- 小学校英語活動基本研修、中高英語科教員スキルアップ研修など、市内の教員向けの研修事業を実施する。
- 小学生の外大訪問や中学生イングリッシュフェスティバル、高校生英語ディベートコンテストなどを本学で開催する。

(2) 高大連携、大学間連携の推進

- ユニティをはじめ、様々な大学間連携を推進する。
- 東京外国語大学との連携協定に基づき、大学院合同セミナーや入試広報における取組の充実を図る。
- グローバル人材育成や外国語教育などに取り組む地域の高校を支援する。

3 語学教員等の輩出

- 履修学生に採用試験の受験を促すとともに、教職員や先輩学生からきめ細やかな相談支援を実施する。
- 履修学生の支援拠点である教職サロンについて、学舎1階への2016年度移転に向けた機能充実の方針を検討する。

新規事業の計画年度と参考指標

(参考指標は2011年度末までの実績値)

- ・オープン・セミナーの延べ受講者数
(第1期年度平均156名→増加)
- ・市民講座の延べ受講者数
(第1期年度平均336名→維持)
- ・市民対象の講演会の開催件数
(第1期年度平均2件→増加)
- ・図書館市民利用制度の開放日数
(2011年度110日→増加)

- ・小中高校の英語教育支援事業
(2011年度6件→増加)
※6件は、小学校外国語活動基本研修、中高英語科教員スキルアップ研修、オープンクラス事業、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクール事業、近隣高校への教員・学生派遣事業

- ・教員免許取得者数(小中高校)
(第1期年度平均70名→維持)
- ・教員採用者数(非常勤を含む)
(第1期年度平均16名→維持)

| | |
|---|--|
| <p>4 ボランティア活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際支援、教育支援、地域交流など、学内外からの多様な活動への協力要請に積極的に応える。 ○新入生向けのボランティア入門講座など、ボランティア活動に参加経験がない学生への啓発や呼びかけを強化する。 <p>5 国際都市神戸への貢献</p> <p>(1) 神戸市の国際交流事業などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸市教育委員会との連携協力協定に基づき、一層の事業連携を目指した協議を行い、2015年度以降のアクションプログラムを策定する。 ○外国語大学の教育研究活動と神戸市の国際施策などの連携や協力の可能性を探る。 ○「医療通訳・コーディネータ入門」を神戸市看護大学との連携により開講し、地域医療に関わる人材育成に貢献する。 <p>(2) 地元企業や地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第4回全国大学生マーケティングコンテスト事業において連携する企業を開拓する。 ○「国際ビジネス・コミュニケーション」などの授業科目において、学生のフィールドワークも交えて行政や地元企業などとの連携や協力の機会を設ける。 ○地域の区役所や経済団体、国際機関などを対象に新たな事業提携先の開拓を検討する。 | <p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は2011年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への派遣学生数 (ボランティアコーナー、国際交流センターの幹旋分の合計) (2011年度465名→増加) ・スクールサポーターの派遣学生数 (2011年度33名→維持) ・イングリッシュサポーターの派遣学生数 (2011年度7名→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・市の審議会委員や生涯学習の講師などを務める延べ教員数 (2011年度15名→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行政や団体などとの提携数 (2011年度1件→2014年度3件) ※1件は、神戸市教育委員会 </div> |
|---|--|

第4 国際交流

1 留学支援制度の拡充

- 長期留学の学生ニーズに応え、交換派遣留学における総合的な支援の充実を図る。
- 荻野スカラシップの第1期生を海外に派遣し、その成果を学内外に発信するとともに、第2期生の学内選抜を行う。

2 外国人留学生の受入れと学内の国際交流機会の拡充

(1) 日本語プログラムの充実

- 日本語プログラムを開講し、増加する海外の提携大学などから留学生を受け入れるとともに、安定した留学生受入体制づくりを推進する。
- 日本語プログラムの留学生について、本学の学生や地域の児童・生徒などとの様々な交流を行う。

(2) 外国人留学生への支援

- 学生ボランティア団体と連携しながら、留学生と日本人学生のフィールドトリップなどの交流事業を実施する。
- 学生や留学生が英語で討論する「第2回 TEDxKCUFS」の行事(※)を市内の中学校などのALT(外国語指導助手)の協力を得て企画・実施する。
※アメリカの非営利団体TEDの承認を受けた事業

3 海外の教育機関との交流・連携の拡充

- 学生ニーズの高い長期の交換派遣留学先の増加を目指して、海外の大学の新規提携先を開拓する。
- 交換教員又は海外の提携大学などの研究者による講義や講演を全ての学科で学生に提供できるよう検討や協議を行う。

新規事業の計画年度と参考指標

(参考指標は2011年度末までの実績値)

- ・長期留学者数(交換派遣留学)
(2011年度31名→2014年度50名)
- ・短期留学者数(派遣留学)
(2011年度62名→長期留学者数の動向との関連を確認する)

- ・日本語プログラムの留学生数
(2011年度9名→増加)
- ・交換留学の人数枠
(2011年度3名→増加)

- ・留学生の生活及び日本語会話支援を行う延べ学生数
(2011年度27名→増加)
- ・チャット事業の延べ参加学生数
(2011年度1,224人→増加)
- ・外国人留学生数(大学全体)
(2011年度87名→増加)

- ・交換交流協定の締結大学数
(2011年度23件→2014年度31件)
- ・海外から招へいた研究者等による講演等件数
(2011年度12件(※)→増加)
※交換教員4名、外国人研究者の招へい8件

第5 柔軟で機動的な大学運営

1 自律的・効率的な大学運営

(1) 運営体制の改善

- 学長懇談会として、大学の様々な課題ごとに役員と学科、部会などが協議や検討を行う場面を創出し、大学運営に教職員の意見やアイデアを活用する。
- 理事長・学長の任期満了に伴う選考手続きを適正に実施する。

(2) 事務などの効率化・合理化

- 大学改革や業務改善を推進するため、教職員が取組提案などを行う役員報告発表会などを実施する。
- 大規模プロジェクト事業に事務局が横断的に参画する体制を検討する。

(3) 大学データの蓄積及び活用

- 教学 IR の試行的実施として、第1回学生生活調査結果の分析や関係教職員による検討会を行い、事業の充実・改善に活用する。
- 中期計画の進捗確認のために各種指標を有効に活用する。

2 人事の適正化

(1) 教職員人事の適正化

- 中期計画の達成や本学の特色ある教育研究体制に必要な教員を採用する。
- 市派遣職員を2名程度削減し、固有職員の採用及び人事異動などにより適正な職員配置に努める。
- 教員の活動全般を対象にした手当制度（ユニット制）を実施するとともに運用上の課題を検証する。

(2) 人材育成の推進

- 将来的な管理職登用も見据え、研修や人事異動を通じた計画的な人材育成を図る。
- 教員の在外研究制度や特別研修制度を実施する。

新規事業の計画年度と参考指標

(参考指標は2011年度末までの実績値)

・学外の有識者の役員などへの任命
又は委嘱数
(5~6名程度)

・ペーパーレス会議の拡大
(2011年度7会議68回→増加)

・客員教員数
(2011年度4名→増加)
・市派遣職員数
(2011年度30名→減少(2名程度))
・固有職員数
(2011年度13名→増加)

・外部研修受講件数(延べ職員数)
(2011年度125名→維持(業務に必要な研修を適切に受講))

| | |
|---|---|
| <p>3 財務内容の改善</p> <p>(1) 自己財源の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○70周年記念事業の寄附金への協力を卒業生や教職員などに広く呼びかける。 ○施設の外部貸付を推進する。 <p>(2) 予算の適正化及び効率的な執行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員人件費の計画的な削減により、総人件費の適正管理に努める。 ○省エネ改修や節電対策などにより、電気使用料などの削減を図る。 <p>(3) 資産の運用管理の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第2学舎増築の先行工事として、老朽化した各教室などの照明・空調設備及び2階トイレ改修を行う。 ○その他、省エネ改修を費用対効果も踏まえて企画・検討する。 <p>4 点検及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○法人評価に関して、2013年度業務実績評価の結果を大学運営に活かす。 ○学校教育法に基づく大学評価について、大学基準協会に改善状況を報告する。また、2016年度受審に向けて自己点検評価報告書の執筆・編集に着手する。 <p>5 情報発信の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページについて、発信性が高く閲覧や検索がしやすいデザインレイアウトの導入や、コンテンツの充実を図り、全面リニューアルを行う。 ○オープンキャンパスで教職員や学生が一丸となり本学の魅力を発信するとともに、地域の高校生を主な対象にした入試説明会を開催する。 ○入試広報に教職員や学生が広く参画する仕組みを検討する。 <p>6 その他業務運営</p> <p>(1) 環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸環境マネジメントシステム (KEMS ステップ 2) に基づく取組を推進する。 ○KEMS ニュースの発行などにより、教職員や学生への啓発や取組への協力依頼を行う。 | <p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は2011年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の外部団体利用料収入 (2014年度末までに16百万円以上) ・寄付金収入 (2014年度末までに32百万円以上) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費(退職金除く) (2014年度に、2011年度比3.2%程度の削減) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・総エネルギー使用量 (2010年度比10%削減の水準(465KJ)を維持) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ総閲覧件数 (2011年度374万件→増加) ・オープンキャンパス来場者数 (2011年度4,200名(入学定員の約10倍)→維持) ・高校等への入試広報件数 (2011年度39件→増加) ・記者資料提供件数 (2011年度25件→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・KEMS ステップ2(神戸環境マネジメントシステム)の目標達成率 (全項目の目標達成を目指す) </div> |
|---|---|

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は 2011 年度末までの実績値)

(2) 危機管理

- 学生の海外留学に係る危機管理の啓発を入学時や留学前などの必要な機会に十分に行う。
- 情報セキュリティの情報提供や啓発を行うとともにウィルス被害などの事象発生時に迅速に対応する。

(3) 安全管理の取組

- 教職員及び学生の安全管理の取組を推進する。
- 大学施設・設備の安全点検を実施し、緊急補修などの対応を行う。

(4) 教育研究環境の整備

- 第 2 学舎増築の実施設計を完成させるとともに、新たな学修施設などにおける事業内容を検討する。
- 情報基盤システムを更新し、情報セキュリティを強化するとともに、新たに無線 LAN を導入する。
- 学務システムを更新し、授業をはじめとした教育活動などにおける教員や学生の利便を向上する。

(5) 創立 70 周年記念事業の企画及び実施

- 70 周年記念事業の式典などの企画を実施するとともに、学内外に伝統や魅力を発信する 70 周年記念誌の執筆・編集に着手する。
- 外国語大学を象徴する教育研究の事業や行事を企画・検討し、2016 年度の開催準備を行う。
- 同窓会や保護者会などに寄附金への協力をはじめ、事業への連携や参加を呼びかける。

(6) 内部統制

- 各種の内部監査を年度計画に基づき実施する。
- 前年度の監査結果を踏まえた業務改善状況を点検する。

第6 予算、収支計画及び資金計画

1 予算（2014年度）

別紙

2 収支計画（2014年度）

別紙

3 資金計画（2014年度）

別紙

第7 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

3億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 積立金の使途

第一期中期計画期間中に生じた積立金は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

予算、収支計画及び資金計画

1. 予算（2014年度）

(単位：百万円)

| 区 分 | 金 額 |
|---------------|----------|
| 収入 | |
| 運営費交付金 | 1, 1 1 7 |
| 自己収入 | 1, 1 8 5 |
| 授業料・入学金・検定料収入 | 1, 1 4 0 |
| その他 | 4 5 |
| 受託研究等収入 | 1 |
| 目的積立金取崩 | 1 1 1 |
| 計 | 2, 4 1 4 |
| 支出 | |
| 業務費 | 2, 2 3 0 |
| 教育研究経費 | 2 9 8 |
| 一般管理費 | 2 0 2 |
| 人件費 | 1, 7 2 9 |
| 受託研究費等経費 | 1 |
| 施設・設備整備費 | 1 8 4 |
| 計 | 2, 4 1 4 |

2. 収支計画（2014年度）

（単位：百万円）

| 区 分 | 金 額 |
|---------------|----------|
| 費用の部 | 2, 3 2 5 |
| 經常費用 | 2, 3 2 5 |
| 業務費 | 2, 0 3 3 |
| 教育研究経費 | 3 0 3 |
| 受託研究費等 | 1 |
| 役員人件費 | 1 0 2 |
| 教員人件費 | 1, 1 9 9 |
| 職員人件費 | 4 2 8 |
| 一般管理費 | 2 0 2 |
| 減価償却費 | 9 0 |
| 臨時損失 | 0 |
| 収入の部 | 2, 3 1 5 |
| 經常収益 | 2, 3 1 5 |
| 運営費交付金収益 | 1, 0 3 5 |
| 授業料収益 | 9 3 0 |
| 入学金収益 | 1 7 9 |
| 検定料収益 | 3 6 |
| 寄附金収益 | 1 1 |
| 受託研究等収益 | 1 |
| 財務収益 | 2 |
| 雑益 | 3 1 |
| 資産見返運営費交付金等戻入 | 7 9 |
| 資産見返補助金等戻入 | 1 |
| 資産見返寄附金戻入 | 6 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 4 |
| 臨時利益 | 0 |
| 純利益 | △ 1 0 |
| 目的積立金取崩益 | 1 0 |
| 総利益 | 0 |

3. 資金計画（2014年度）

（単位：百万円）

| 区 分 | 金 額 |
|------------------|-------|
| 資金支出 | 3,099 |
| 業務活動による支出 | 2,204 |
| 投資活動による支出 | 210 |
| 財務活動による支出 | 0 |
| 翌年度への繰越金 | 685 |
| 資金収入 | 3,099 |
| 業務活動による収入 | 2,293 |
| 運営費交付金による収入 | 1,100 |
| 授業料・入学金・検定料による収入 | 1,140 |
| 受託研究等収入 | 1 |
| 寄附金収入 | 21 |
| その他の収入 | 31 |
| 投資活動による収入 | 3 |
| 財務活動による収入 | 0 |
| 前年度よりの繰越金 | 803 |